

日向市立幸脇小学校の学力向上への取組

1 学校の概要

本校は、日向市中心部から南へ約 10 km、耳川河口の北岸の高台に位置し、南は眼下に耳川の清流と美々津の町並み、東には七ツバエの灯台越しに遙か日向灘を臨むことができる。眺めはまさに絶景であり、豊かな心を育て伸ばすには最適の環境にあるといえる。

少子高齢化は本校も例外ではなく、児童数も年々減少の一途をたどり、本年度は児童数 29 名、5 学級（3・4 年、5・6 年が複式）の小規模である。しかし、「花・歌・絵 楽しさいっぱい幸脇小学校」のキャッチフレーズどおり、花いっぱい絵のような素晴らしい眺めの中、地域とのふれあい活動や俳句づくりなど、常に活気溢れる学校生活を送っている。全職員で全児童の指導に当たるという共通理解のもとに、小規模校のよさを生かしながら個に応じた指導に心掛け、学校と家庭・地域との連携を密にしながら、本校の教育目標「知・徳・体の調和のとれた教育の推進と人間性豊かな児童の育成」の達成に日々努めている。

2 児童の実態

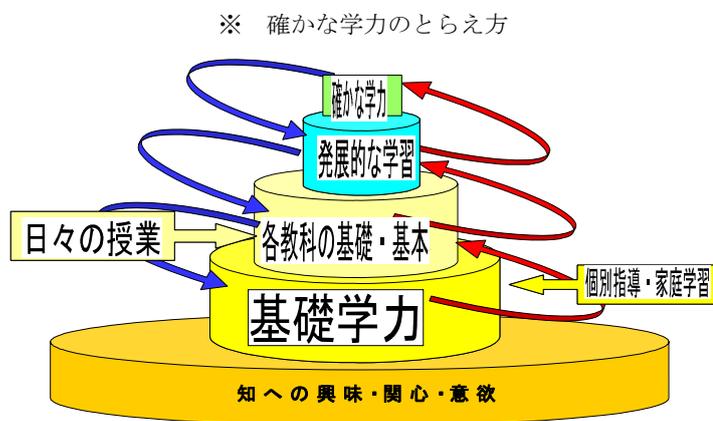
一昨年度実施した小学校基礎学力調査や到達度学力検査の結果を分析したところ、基礎学力に課題があることが明確になった。そこで昨年度は、主題研究を中心に、個に応じた学習指導法の工夫改善を図りながら基礎学力の向上に努めてきた。その結果、小学校基礎学力調査（10 月実施）や到達度検査（2 月実施）では、学年差は少し見られるものの、全体的な傾向としては平均値に達することができた。さらに本年度 5 月に実施した小学校学力調査（5 年）では、全教科とも県平均を上まわることができ、ある程度の成果を得ることができた。

しかし、各学力調査結果を詳しく分析してみると、応用力、思考力、学習に対する興味・関心等に不十分な面が見られた。また、児童の学習に対する意識調査や家庭学習の実態調査から、学習意欲や学習態度、家庭学習の内容や学習時間においても個人差があり、主体的に学ぼうとする意欲や態度面でも課題が残されており目標が十分達成されていない状況である。

3 学力向上に向けた経営方針

本年度は「ほめて伸ばす（一人一人にきめ細かな指導を！）」を学力向上の経営の基調とし、確かな学力の育成のため、以下の推進に努める。

- ① 児童が主体的に学習に取り組む指導過程や指導形態の工夫改善
- ② 小規模校のよさを生かした個別指導の充実と家庭と連携した基礎学力発展的な学習内容の定着
- ③ 知への興味・関心・意欲を高める学習環境の整備・充実



4 教育課程内の取組

(1) 算数科を通じた学習指導法の充実（主題研究）

① 基本的な学習指導過程の工夫

1 単位時間の基本的な学習指導過程を「つかむ」「もとめる」「だしあう」「チャレンジ」の4段階に分け、問題解決的な学習の流れに沿って学習を進めることにした。

○ 基本的な学習指導過程

段階	主な学習活動
つかむ (課題設定)	① 学習問題をとらえ、解決の見通しをもつ。 ○ 問題文を読み、問われていることをつかむ。 ○ 条件をつかみ、今までの学習と違うところを考える。
もとめる	② 既習事項や経験等をもとに自分の力で問題を解く。 ○ 見通しに沿って問題を解く。 ○ 別の方法で解いたり、前時学習の資料を活用したりする。 ○ 発表のための資料を作成する。(画用紙、ホワイトボードなど)
だしあう	③ ガイド学習によって考えを出し合い、よりよい解決方法を知る。 ○ 友達に自分の考えが分かるように発表する。 ○ 友達の良いところや自分の考えと違うところを注意深く聞く。 ○ よりよい方法を出し合う。(質疑・応答) ④ 教師とともに、考え方や解き方等を確かめる。
チャレンジ	⑤ 適応問題、応用問題を解くなど、学習内容の定着を図る。 ○ 学習したことを生かして自力解決に取り組む。 ○ 自分なりに考えたことを文章や絵、図等にまとめる。

○ 複式学級における指導過程

下 (上) 学年		上 (下) 学年	
つかむ	直接指導	間接指導	チャレンジ
もとめる	ガイド学習 間接	直接指導	つかむ
だしあう	直接指導	ガイド学習 間接	もとめる
チャレンジ	間接指導	直接指導	だしあう

複式学級における両学年の学習指導過程では、指導の段階・過程をずらしていく必要がある。本校では、間接指導の内容を充実させるため、ガイド学習を取り入れ、自ら進んで取り組む児童の育成を図るとともに、指導段階に「ずらし」を工夫して学習内容の確実な定着を目指している。

② 算数的学習環境の工夫

児童が確かな学力を身に付けるためには、1時間の授業の充実を図る教材・教具を整備し、授業だけでなく学校生活全般で基礎・基本の定着や、興味・関心を高める取組が大切であると考えた。

ア 算数科教材の整備

教材・教具を使いやすくするために学年毎に整理した結果、児童が授業前に必要な道具や教具を準備する姿が見られるようになった。今後はさらに使いやすくするため、教具の名前やどんな時に使うものなのか表示する計画である。

イ 算数コーナーの設置

児童の算数への興味・関心を高める場、量感など体感できる場として算数コーナーを設置した。廊下や階段、壁面を利用して、長さ、広さ、高さ等が体感できるようにしている。今後は、算数クイズコーナーを設置し、算数問題をクイズ形式で答える場を設置する予定である。



(2) 授業形態の工夫

1・2年生から教科によっては合同学習を実施したり、教師の専門性・個性及び経験を生

かし、一部教科担任制を実施している。特に、複式学級の社会と理科は、学年別指導が効果的であると考え、学級担任以外にも教頭や低学年担任が授業を受け持っている。

○ 一部教科担任制を導入した具体的内容

	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図工	家庭	体育	道德	学活	総合
1年					合同授業	合同授業			合同授業			
2年					1年担任	1年担任			2年担任			
3年		単独授業(学担)		単独授業(2担)		合同授業						
4年		単独授業(教頭)		単独授業(学担)		1年担任						
5年		単独授業(教頭)		単独授業(学担)		合同授業						
6年		単独授業(学担)		単独授業(2担)		1年担任						

(3) 個に応じた指導と家庭学習の充実

ア 火・木曜日の朝の活動に「個別指導の時間」を設定し、漢字や計算を中心とした個に応じた指導を行っている。

イ 家庭学習の充実を図る目的で、「家庭学習の手引き」を作成し、児童に学級活動等で、保護者には参観日を利用して説明し、手引きに基づいた意見交換を参観日毎に行っている。「家庭学習指導週間」を毎月設定し、家庭と連携しながら基礎学力の定着を図っている。

(4) 集会活動の充実

学力を支えるものの一つとして「自分で考えたものを、自分の言葉で表現できる力」を重点に置き、俳句集会、発表集会、児童集会、音楽集会を毎月実施し、考える力、表現する力の育成に努めている。特に、表現活動の一環として俳句づくりに取り組んで11年目を迎え、今では自然に五七五の調べに親しんでいる。隔週投句している宮日新聞の学園俳壇では、多くの入選句が掲載されている。



俳句集会（学年代表の発表）

(5) 小・中連携教育の充実

美々津中学校区において、学力向上と生徒指導の充実をめざし、6月と11月に小学校（幸脇小、美々津小、田の原分校、寺迫小）と中学校（美々津中学校）がお互い授業参観を行い、研究協議会を行っている。学力面、生徒指導面など活発な意見交換がなされ小・中学校間の貴重な交流の場となっている。また、9月には、小・中学校共通のアンケート調査も実施し、学習面や生活面に対する意識調査を行った。今後は、2月に「スポーツ交流会」を実施する予定である。

(6) 読書活動の充実

「読書タイム週間」を設定し、読み聞かせや図書室や市立図書館利用の推進を図っている。読み終わった本は、読書感想文や読書奨励文を書かせ、読書コーナーに掲示している。また、読書量50%増大計画の推進を展開中である。本年度から、寺迫小学校との読書感想文の交流を行っている。



5 教育課程外の取組

(1) 授業力の向上のために

算数科、道徳、同和教育、学級活動の研究授業を全員が必ず1回は行うようにしている。事後の全体研修会では、指導方法の工夫による児童の意欲的な反応に注目した感想や意見が多く出されるようになり、意欲的な授業改善が進んでいる。

(2) 学校全体、学年・学級毎の学力の分析と対策

職員研修や夏季休業中の研修において、学力調査、CRTテスト、単元毎のワークテストの分析を行い、学校全体、学年・学級毎の課題を明確にし、学年の数値目標を設定するなどその対策を協議した。

6 保護者・家庭、地域との連携

(1) 家庭学習の定着

授業で学習した内容をしっかりと身に付けさせるためには、家庭での学習の在り方も重要になってくる。家庭学習の定着を図るためには、保護者向けの「家庭学習の手引き」を配布し、参観日を利用して説明会や意見交換会を実施したり、「家庭学習の計画表」を親子で作成したりした。

＜家庭学習の定着への具体的な取組＞

- ① 「家庭学習の手引き」の児童・保護者への配布と説明
 - 保護者には参観日を利用して説明し共通理解を図る。
- ② 「家庭学習の計画表」の作成
 - 家庭で親子が話し合って作成し、担任が確認する。
 - 計画表は、家庭の分かりやすい場所に掲示する。
- ③ 家庭学習指導週間の設定とアンケートの実施
 - 毎月「家庭学習指導週間」を設定し、その期間の児童の自己評価と保護者へのアンケート調査を行い、児童の実態把握と事後の個別指導を行う。
 - アンケート結果「まとめ」については、参観日等で報告する。

7 成果と課題（次年度の取組を含む）

(1) 成果

- 各種の学力調査の分析やアンケート調査等から児童一人一人の実態が明確になり、個々の育てたい姿が把握できた。また、1単位時間の学習指導過程「4段階」に沿っての指導の共通理解を図ったことで、意図的・計画的な授業実践を行えるようになってきた。
- 家庭学習の充実のために、「家庭学習の手引き」、「家庭学習の計画表」を作成したり、アンケート調査や参観日の学級懇談会で保護者に啓発したりしたことにより、児童が進んで家庭学習に取り組むようになった。
- 確かな学力が身に付くように、日々の授業改善や個別指導の徹底、知への興味・関心が高まるような学習環境の工夫を行ったことで、基礎学力調査等の分析で明確となった応用力の不足、学習に対する興味・関心の低さへの課題に対する対策が共通理解され、全校体制で指導できるようになった。

(2) 課題

- 教師の指導技術の向上を目指す研究授業の充実はもとより、問題解決的な学習指導法の研究をさらに深める。特に次年度は、ガイド学習を中心とした自力解決学習、児童同士が深め合う「だしあう」段階の研究を深めていきたい。
- 児童の興味・関心をさらに高めるため、体験的な学習活動の充実と読書活動の推進に努める。
- 個に応じた指導の工夫と家庭と連携した家庭学習の充実に向け、さらに研究を深める。